

来週の「売り物記事」はこれ



2019年3月22日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

三陸鉄道とともに

岩手県職員から社長へ——復興に挑む

24日（日）



東日本大震災の津波で不通になっていたJR山田線宮古—釜石間が今月23日、第三セクターの三陸鉄道に営業移管され、8年ぶりに運転を再開します。同区間を挟んで南・北に分かれていた三陸鉄道は一つにつながります。

社長の中村一郎さん（63）は震災当時、岩手県職員として沿岸部の災害対応に尽力しました。「鉄道を復興のシンボルに」と奮闘する中村さんに迫ります。

筆者は盛岡支局の佐藤慶記者です。



私の胸のうち テーマ「卒業」

サラダぼうる面 25日（月）

「卒業」というテーマに、人生のさまざまな卒業にまつわるお便りが寄せられました。「普通」を卒業すれば生きるのがラクになる▽知的障害者支援施設でボランティア活動に加わり、娯楽の競馬から卒業できた——などなど。戦後の食糧難を経験した女性は今も食後は羊かん。今回の投稿を機に「甘いもの卒業」だそうです。力作ぞろいの読者の本音をお届けします。

「ノーベル賞推薦」余波

夕刊特集ワイド 25日（月）

思わず耳を疑った人も多かったのではないのでしょうか。

トランプ米大統領が先月、安倍晋三首相からノーベル平和賞に推薦されたと言ったことです。しかも「日本を代表」しての行動だということです。

でも、当の安倍首相は国会でただされても、「コメントは控えたい」などと明確な説明をしていません。米大統領選に詳しい識者は「安倍首相の推薦には重大な問題が潜んでいる」と指摘します。

今回の推薦騒動の波紋を、改めて取材しました。

住 リビング 都会の日常 地方でリセット

くらしナビ面 26日（火）

別荘と聞けば、おカネに余裕のある富裕層や、定年退職したシニア世代が持つもの、というイメージが強いかもかもしれません。でも最近は、手ごろな賃貸物件を利用したり空き家に手を加えたりしつつ、都会と地方の「2拠点生活」を選ぶ若い世代が現れています。

夏はマウンテンバイクや山登り、冬はスノーボードやスキー。2拠点をエンジョイする30代を紹介します。



[論点・平成の軌跡]

地球温暖化対策 持続可能な社会を作るには

オピニオン面 27日(水)

平成時代、日本の環境行政は地球規模の環境問題への対応を迫られました。問題の筆頭は地球温暖化対策でしょう。先進国に温室効果ガスの削減を義務付けた京都議定書の策定で、日本は国際交渉の表舞台に躍り出ましたが、その後は影が薄い。持続可能な社会を作るために今、何をなすべきでしょうか。国際交渉の最前線に立ってきた浜中裕徳・元環境省地球環境審議官(74)に聞きました。時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。



認可保育所「落選」で「第2保活」

医療・福祉面 27日(水)



今年4月入所の認可保育所1次選考に申し込んだ0～2歳児のうち、7人に1人が「落選」したことが、主要自治体を対象とした調査結果で分かりました。入所が決まらなかった保護者が代わりとなる認可外保育所やベビーシッターを検討する「第2保活」の状況を紹介しします。待機児童解消は大きな課題となっていますが、保育士を確保し、保育の質を保つことも大切。10月から始まる幼児教育・保育無償化で、待機児童の増加などを懸念する自治体の事情も紹介しします。

惑星はどうやってできる？

科学面 28日(木)

われわれのすむ地球のような惑星は、どのようにして誕生したのでしょうか？1970年代に京都大学の研究チームが提案した標準的なシナリオでは、まず恒星(太陽のような星)が生まれた際、恒星に取り込まれなかったガスやちりが恒星を取り巻きながら回転し、これが衝突・合体を繰り返すうちに地球や火星のような岩石質の惑星に成長したと考えられています。大きな岩石質の惑星には、その強力な重力によって残っていたガスがまとわりつき、木星や土星のような巨大なガス惑星になりました。



しかし近年、太陽系外で多くの惑星系が見つかり、その中には、この標準シナリオから外れた変わり種もあります。惑星形成理論を巡る最近の研究を紹介しします。

大人の発達障害の今

くらしナビ面 27日(水)、28日(木)

発達障害——脳機能障害などに起因する精神疾患のことで、他人とのコミュニケーションがうまく取れなかったり、衝動性や多動性があったりするのが特徴です。この概念がない時代に育った大人の発達障害者は、その特性を周囲に理解されず、時には厳しい叱責や冷遇を受けてきました。疾患に加え、いじめや虐待という「多種の生きにくさ」を抱える今を迫りました。

お知らせ：3月29日の「来週の売り物記事はこれ」はお休みします。